

編集室

9月、10月と大型の台風が襲い、東日本を中心とした各地で、大雨による河川の決壊や氾濫、土砂崩れ、強風による建造物倒壊などの被害が多発した。亡くなったりけがをしたりした人が多数に上り、停電などによる経済活動や生活への影響も大きかった。

停電からいつ復旧するか分からない状況で、自家発電設備のある医療機関や高齢者施設も不安は大きかっただろう。鉄道が寸断し、冠水して通行できない道路も多かった。多摩キャンパスのある八王子市でも浅川が一部で氾濫し、土砂崩れが発生した地域があった。

電気やガス、水道、電話、鉄道、道路、河川管理、警察、消防、自衛隊の関係者等々。当たり前利用できるインフラが使えなくなったり、緊急事態が発生したりすると、これらの仕事に従事する人々は、次から次に起きる事態に対処するため、目まぐるしい時を過ごすことになる。

一部の人は、自らも同じ地域に住む被災者であるにもかかわらずだ。ただ、大変な仕事ではあるが、より大勢の人の役に立ち、住民の暮らしを支える。充実感や、やりがいはい大きいだろう。

10月の夕暮れ時、小田急多摩線の電車内で近くにいた大学生の男女の会話が聞こえてきた。どこの大学かは分からないが、話し口調からゼミ、サークルなどの先輩、後輩の間柄らしい。

台風が話題が及び、先輩とおぼしき男性が「水害を見てるとさ、インフラ系って嫌だなんて思うんだよね。休みもないし」と話しかけ、女性も「そうですよね」と相づちを返した。「先輩」は就活中か、就活を始めようという時期を迎えているようだ。

「非常時なら確かに休みはなくなるかもしれない。でも『働き方改革』のこれからの時代は、代休も取りやすくなるかもしれない。何よりやりがいはあると思うんだけどな」

言葉をのみ込んだが、世の中の出来事や社会の動きを「就活」を基準に見つめ、考えること。それも大事なことなのだと思います。それでも、お叱りを承知で言えば…。自ら休みを返上したくなるくらい、それくらい魅力的な仕事を見つけてほしい。

この秋に相次いだ台風で亡くなられた方とご家族に心よりお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。
(編集長 北村豊)

STAFF

◎取材協力

学事部	国際センター
各学部事務室	入学センター
大学院事務室	キャリアセンター
学生部	学友会
ボランティアセンター	経理研究所
中央図書館	委員会 ほか

◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

◎学生記者

本間友理香	宮田詩織	宮本大句見
中里真侑	齋藤優衣	津田翔
平岡亜美	石井伊蓊	森康太郎
松村吏紗	中村美咲	澤昌彩香
山口真歩	(順不同)	

◎制作協力

平田碧 太田まゆみ 土谷彩絵子(株式会社ツグミ)
稲葉美枝子(株式会社オーク)
桧一郎 村田朋隆(研精堂印刷株式会社)
亀井宏昭

NEXT
ISSUE

『HAKUMON Chuo』2020 早春号
No.265 3月24日発行予定

学生記者が
総力取材!!

お楽しみに!



2019 冬号 NO.264

2019(令和元)年12月16日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当：『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048